

金光大神賛仰詞

生神金光大神様(先唱者)

生神金光大神様と御神号を称えて拝みまつる、

わが教祖金光大神 実意丁寧神信心をすすめ、

奇しき神みかけ蒙りたまひ、

神と人とあいよかけよで立ち行く世界の開け行くまにまに、

尊き神依さしありて 専ら御取次仕えたもうこととなりぬ。

かくて生神金光大神取次の道立ち 救わるる者数えも尽きず、

「神の助かり氏子の難なし 神のひれい見え忝し、

神が一礼申す」と神賛えられたまひぬ。

時代移り社会は変わり 難きこと次々に起こりくるも、

信心辛抱の徳もて道立てぬきたまえば、

ついに天地金乃神その御神名を現したまひ、

「生神金光大神差し向け 願う氏子におかげを授け理解申して聞かせ、

末々まで繁盛いたすこと、

氏子ありての神神ありての氏子 上下立つようにいたす」と神宣らせたもう。

教祖金光大神終日取次の座にましまし祈念仕え、

参来る人に 「信心しておかげを受け 神になれ」と説き諭し、

「一人助ければ一人の神」と教え導き、

神願成就に身を尽くさせたまひぬ。

かくて「神からも氏子からも両方の恩人はこの方金光大神」と神賛えられ、

百日修行を果たし、

かねて仕えたまひてありし金光大神祭日のその日神上がりましぬ。

畏しや 教祖の神ありて取次の道は始まり、

代を重ねて道は伝わり、

直信先覚先師ありて道はいや広がりぬ。

ああわれら奇しき神縁を蒙り 限りなき神恩に浴し、

ここに教祖百四十年のお年柄を迎えまつる。

尊き御一代を偲び慕いまつりて 御徳を賛え仰ぎまつる。